

結末まで 問いかけ続ける 「あなたなら？」

藤田正

ふじた ただし/音楽プロデューサー



©Zentropa Entertainments16

『未来を生きる君たちへ』

原

題が「復讐」だと知ってナルホドと思った。野原のベンチに腰かけてパパに肩を抱かれる少年二人のイメージ写真と、この邦題からは、小さな怒りの積み重ねがやがて取り返しつかぬ暴力のホムラと変じる事実をわれわれに突きつけ、そして「あなたなら？」と質問し続ける映画であることは、想像がつかなかったからだ。

しかも暴力は、二つの大陸で、両者まったく別の様相を呈しながら同時に進行していく。だが映画は、関連していないように見える赤砂の舞うアフリカの難民キャンプにおける惨劇と、緑豊かなデンマークに暮らす少年たちの「復讐」という暴力」の芽生えが、果たして本当に無関係であろうか？ と問いかけるのだ。

監督はデンマークのスサンネ・ピア。今年のアカデミー賞、同じくゴールデン・グローブ賞の最優秀外国語映画賞ほか各国の映画祭で高い評価を受けただけあって、難しい構造を持つこの作品を緊迫感ある展開でまとめている。

子どもたちが考える「殴られたから殴り返すのだ」というリクツを、身をもって断ち切る、すなわち相手から殴られたままであることの大切さを教えるのが、主人公の医師（ミカエル・パーシユブランド）である。難民キャンプで働く彼は、たまにデンマークに帰れば、妻との不和、息子のイジメという火種を抱えている。いかにも人徳のありそうな主人公だが、次々に妊婦の腹を切り刻み快感を得る悪魔のようなアフリカ人を前に、ついに怒りが爆発する。一方、息子とその親友はある男に対して凄まじい復讐を考えていた。裏のテーマは、人を赦すこと。ピア監督は「それはあなたの問題でもある」と結末までほくらを引きずってゆく。

監督：スサンネ・ピア
出演：ミカエル・ベルスブランド、トリーヌ・ディルホルムほか
2010年/デンマーク＝スウェーデン/118分
●8月13日（土）より、東京・TOHOシネマズシャンテ（TEL03-3591-1511）ほか全国順次公開。

週刊金曜日 2011.8.19 (859号)